

大分寺婦

第29号

発行
大分教区
寺族婦人会連盟
〒874-0920
別府市北浜3丁目6-36
本願寺別府別院内
TEL 0977-22-0146

新年のご挨拶

大分教区寺族婦人会連盟 委員長 山田文子



I 新年を迎え、慈光照護のもとご健勝にてお念仏相続の日々とお慶び申し上げます。

この度、27年度と28年度の教区寺婦連盟委員長を仰せつかりました。思いがけない大役で不安ですが、事務局・役員・会員皆様のご指導・ご協力をいただき、責務遂行に努めて参りたい

と思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。

スローガン「広げよう お念仏の声」のもと、活動方針は、①いのちの尊厳と現実社会を問題にして「御同胞の社会をめざす運動」を積極的に推進する。

②お念仏相続の重責を担う者としての自覚を深め会員相互の連携を図る。

とあります。長い間踏襲されてきている大きな課題で、一人ひとりの前向きな実践、研修が必要だと把握されます。

II 総会で承認された事業計画にはなかったのですが、八月末

の「門信徒のつどい」が入ってきました。電話で呼びかけましたら、多くの委員さんの協力をいただけました。受付と案内係・献香係として朝早くから活動して下さり、感謝感謝でした。

教区の仏壮・仏青・仏婦・寺婦、少年、総代、六教化団体が二年前から計画してきた大行事で別府ビーコンプラザを会場に千人以上が集いました。「手を合わせ、お念仏申すひとになつてもらいたい」をスローガンに、厳かな音楽法要、トーンチャイム演奏・法話・法衣ファッションショー・非戦平和の願い・コーラスと一つ一つがすばらしく感動溢れるものでした。

白佐組仏婦・津久見少年少女合唱団のコーラス♪生きる♪は
いかされて いきてきた
いかされて いきている
いかされて いきていこうと
てをあわせ なもあみだぶつ
というありがたい歌詞で、歌い
易いメロディー、会場全員でく
り返し歌うと「生かされて生き
ている」温かく力強い教えがし
みじみ心に残る、ホットなひと

ときでした。

III 親鸞聖人の時代も人々の苦しみや不安がありました。現代も気候変動・核物質の拡散・経済格差や武力紛争・テロ等、社会を不安にしています。

こんな中、昨年六月、25代門主に就任された専如ご門主は、「法統継承に際しての消息文」を出されました。又、今年一月には来年と再来年に勤修される「伝灯奉告法要についての消息文」が出されました。その中で本願念仏のありがたさ・尊さを一人でも多くの人に伝える大切さ、新しい一歩として時代の変化に対応していくよう、呼びかけられています。

IV お内仏報恩講は、大きな活動計画の一つです。ご開山が生涯かけて残して下さったみ教えに感謝し、二月五日、皆様と一緒に勤めさせていただきます。そして、組研修の交流の場にするチャンスにもしましょう。

念仏で、我身が知らされ

励まされ
合掌

研修総会

平成27年度 大分教区寺族婦人会連盟総会が、6月10日(水)四日市別院本堂にて行われました。教区内各組から117名の方が参加しました。

午前の開会式では、讃佛偈をお勤めした後、錦織信貴教務所長のご挨拶、野本恵子寺婦連盟委員長のご挨拶がありました。そして、2014年度活動報告、決算、並びに監査報告、2015年度活動計画案、予算案



が審議され、承認されました。また、今年度も引き続き、東日本震災の支援活動として、東北教区で行われているお茶会でお菓子を毎月送る活動を行うことが決定しました。

午後からの講話では、童謡詩人であり、金子みすずの作品集の編集に携わっておられる矢崎節夫先生に、『金子みすずのまなざし』と題してのご講話をいただきました。

いくつかの作品の朗読、解説をしていただく中で、東日本大震災直後、メディアで放送されていた「こだまでしょうか」という詩に触れられ、痛み、さみ

しき、悲しき、自分の感情をまると受けとめてくれる、「こだま」の在り方が宗教の基本、人間の原点であり、落ち込んでいる時にうなずいてくれる、寄り添ってくれる存在ではないかと述べられ、そんな寺族の方になつて頂きたいとおっしゃいました。

また、みすずの詩に表現されている生命に対するやさしいまなざし。そんな心をもった子どもたちが育つように寺族婦人としてのメッセージを送ってほしいとおっしゃっていました。

人間関係が希薄した現代社会、時に自分側からしか物事を見て



いない自分。寄り添い、相手の事を想う気持ち、理解する気持ちの大切さを改めて感じ、努力して参りたいと思いました。



太平洋戦争全戦没者・ 沖縄戦終戦70年追悼法要に参拝して



法要

去る12月3日・4日に沖縄県にて開催されました、太平洋戦争全戦没者・沖縄戦終戦70年追悼法要に教務所長をはじめ、大分教区の皆様と参拝させていただきました。

初日の3日は沖縄コンベンションセンターにおいて追悼法要が行われ、お勤めの後、浄土真宗本願寺派総長石上智康氏、沖縄



記念講演

県宗務事務所長・法要実行委員長の下間要信氏より、今回の法要についてのご挨拶がありました。その後、2名の御講師の記念講演があり、はじめに沖縄県国際大学非常勤講師の屋良朝博氏より、世界から見た沖縄の位置、なぜ沖縄が戦場にされなければならなかったのか、今もなお続く沖縄の過酷な状況などの



国立沖縄戦没者墓苑

お話しをいただきました。次に、浄土真宗本願寺派総合研究所長の丘山願海氏より、宗教者としての立場からのお話しをいただきました。宗教者とは、利害を越えて、常に人を育てていかなければならない。世界がどうあつてほしいか、そのためには自分は何ができるのか、自分自身がそのまま良いのか、自分のあり方を考える。武器なき絶対平和。沖縄を軍事基地から解放し、平和のメッセージを發する基地にしていけたら良いと考えると言われた言葉が心に残り



平和の礎

ました。
4日には国立沖縄戦没者墓苑にてお勤めがあり、法要実行委員会行事部長のご挨拶、お焼香をして閉会となりました。
その後、空港へ帰る前に訪れた糸数アブチラガマ(全長270m、陸軍病院の分室にもなった自然洞窟)では、沖縄で繰り広げられた戦争の痛まじさが胸に迫る思いがし、本当の戦争の恐ろしさを伝えていくことの大切さを実感させていただきまし

おくやみ

平成二十七年は左記の方がご逝去されました。

謹んでお悔やみ申しあげます。

○大内 なをみ(78歳)

大海組 専想寺 前坊守

平成二十六年十二月二十八日

○渡邊 三枝(91歳)

津房組 西楽寺 前坊守

平成二十七年 七月二四日

○堂山 喜美香(95歳)

国東中組 光周寺 前坊守

平成二十七年 八月一日

○武田 治子(89歳)

臼佐組 善正寺 前坊守

平成二十七年 九月一四日

○村上 智恵子(88歳)

大野組 乗蓮寺 前々坊守

平成二十七年 十月三十一日

お内佛報恩講のご案内

日時：2016(平成28)年2月5日(金)
10時40分～受付

場所：本願寺別府別院「お内佛」(二階)

講師：和田 新吾 先生(岡組・蓮光寺)



ざわわ ざわわ
サトウキビ

あとがき

戦後70年を迎えた今年、私事ではございますが、95歳の実母が亡くなりました。戦前、戦中、戦後に次々とわが子を亡くし、残されたのは戦争を知らずに生まれ育った2人の兄妹でした。のんびりと育った私は、両親の戦争を生き延びた歴史をあまり聞けずにお別れしてしまいました。どれほどの辛苦があったかは想像するほかありません。

しかし、仏様からご縁をいただき、これからの時代を生き延び行く私たちは、その悲しみの歴史を繰り返してはなりません。子や孫にどのような何を伝えていかなければならないのか真剣に考え、実践していかなければと思うところです。

